

## 往復メールの続きを求めて

愛知大学非常勤講師 加納 希美

受信記録に拠ると、それは2015年の11月を迎えて間もないある晩のことだった。翌年早々に予定されている日本中国語学会関東支部例会での発表を控え、「まともな発表ができるだろうか」とひとり不安に苛まれているところへ、島津先生からの一通の「再送」メールが届いたのだった。当時、私は中国語の拡張的二重目的語構文の一種として臨時量詞を伴うタイプを取り上げ、当該構文が成立する条件を明らかにするという課題に取り組んでいた。九月末の中国語文法研究会でその成果の一部を報告したところ、研究会に参加されていた島津先生が報告内容に関するコメントや疑問点をまとめ、メール送信して下さったのだった。年明けの例会までに報告内容の問題点を修正し、発展させねばならない、と焦り気味であった私にとって、島津先生のコメントは修正の方向性を見極めるための重要な示唆を与えて下さるものであり、救いの手が差し伸べられたように感じられたものだ。更にその後の数回に及ぶメールの往復を通じて、私は島津先生の研究者としての心意気に改めて触れ、今後目指すべき理想の姿を一層明確にすることができた。

なぜそれが「再送」メールであったのか。島津先生はせっかく研究会直後に当該メールを送って下さったのに、どういう訳か私の元には届いていなかったのだ。それを知った島津先生はなんと、研究会での配布資料を読み返した上で、新たなコメントまで加えて下さったのだった。当時の島津先生はというと、ご自身の研究活動ばかりでなく中国語の学習指導においても多忙を極めていたはずであり、学生が作成した中国語劇のオリジナル原稿をご自身で添削していると仰っていた。そんな中、私へのメール再送のために余計なご面倒を掛けしてしまったのだ。そのこ

とについてお詫びと感謝の気持ちをお伝えし、「全く島津先生には頭が上がりません。いったいどうすればよいのか。」等といたたまれない思いに駆られているところへ、また島津先生からの返信が届き「きちんと考えて書かれたものを読んで思考の訓練をすることはとても楽しいですし、とても勉強になるので、私が勝手にコメントをお送りしたまで」と仰るのだった。もちろん、私の心苦しさを慮っての言葉には違いないのだが、「思考の訓練を楽しむ」という知的活動は確かに島津先生の日常そのものであったように思われる。

あるとき島津先生は病院の待合室で先行研究の論文を読み直し、そこに先生の議論に深く関わる記述があることを思い出した、というエピソードを話して下さった。それは、島津先生が「“了”存現文と“着”存現文の意味と機能」というテーマで研究発表された時のことだった。“了”存現文、“着”存現文はそれぞれ次のような表現を指す。

(1) 路边立了警示牌。 (税昌锡 2011<sup>1)</sup>)

(道端に警告表示板が立っている。) (島津 2016<sup>2)</sup>)

(2) 路边立着警示牌。 (税昌锡 2011)

(道端に警告表示板が立っている。) (島津 2016)

“V了”を伴う存現文が(1)のように状態表現に対応して用いられる場合、(2)のように“V着”の形に置き換え可能なことがある。島津先生のご発表は、従来必ずしも明らかにされてこなかった両タイプの存現文の意味の相違や機能分担の実態を解明し、その上でそれぞれの存現文の意味機能に基づいて“了”と“着”の互換現象を説明するという趣旨のものである。島津 2016 は当該の研究成果を論文として発表されたものであり、両

1) 税昌锡 2011 「事件过程与存现构式中的“了”和“着”」,『语言科学(第10卷)』第3期。

2) 島津幸子 2016 「“着”存現文と“了”存現文の意味機能」,『汉语与汉语教学研究』(第7期), 東京: 東方書店。

タイプの存現文の機能分担について、「モノがどのような姿で存在するかを述べる場合には“着”存現文を用い、モノがなぜそこにあるのか、「姿」を語るよりもその「来歴」を語る必要がある場合には動的事態との関連に言及することが可能な“了”存現文を用いる」と述べられている。島津先生が研究会の際に言及された先行研究は確か、“了”存現文の典型的な意味機能についての分析を示し、“了”存現文の意味機能についての島津先生の解釈を支持し得るものであったと記憶している。島津先生はたとえ通院の際の待ち時間であろうと思考の訓練を楽しむ機会として捉え、先行研究を丹念に読み解きながら、こうした研究成果につながる議論を静かに組み立てていらっしゃったのだと想像される。

ところで、“V了”の形が動態的事態と状態に共に対応して用いられる現象は、臨時量詞を伴う次のような構文にも観察される。

- (3) “哗啦”一倒，花里胡哨的塑料玩具立马堆了一地。

（陈建功《要叉》）

[ガラッとひっくり返すと、すぐさま色とりどりのプラスチック製の玩具が地面一面に積み上げられた。]

- (4) 失魂落魄地跑回家，大衣柜敞着门，衣服摊了一床。

（张欣《掘金时代》）

[びっくり仰天して家に駆け戻ると、大型洋服箆笥は扉が開いたままで服がベッド一面に広げられていた。]

意味上、(3)は“玩具（おもちゃ）”の分布様態の動態的变化を表し、(4)は主語に立つ“衣服（衣服）”の状態を描く表現であると特徴づけられる。この種の構文は統語構造だけでなく、意味の上でも存現文とは異なり、事物の出現や存在を述べ立てるわけではないが、“V了”を伴う構文が動態的事態と状態のいずれにも対応し得る点で“了”存現文と共通する。島津先生ならばこの現象についてどのように分析し、立証されるだろうか。島津先生の研究成果を何度でも読み返し問いかけを続ければ、またあの

時のように解決の手がかりをそっと示して下さるような気がしてならない。私にとって島津先生の業績を振り返ることは、思考の訓練を楽しむというよりも、むしろ島津先生とのメールの続きを求めるようなことであるのかもしれないが、まずは形から入って、一歩でも二歩でも、目指すべき島津先生の境地に近づきたいと願うのである。

島津先生からの再送メールはまた、どんなに拙い論文であっても読者が存在し得る、という緊張感と励ましを与えて下さった。当時私が考察対象に取り上げた構文は拡張的な二重目的語構文の中でも生産性が低く、中国語教科書の学習項目に取り上げられることはまず無さそうな表現であった。当該構文の構造的、意味特徴や成立条件が解明されたところで、ただちに中国語研究の発展に貢献したり、大きな革新をもたらしたりするとは考えにくい。そんな議論に対しても、貴重な時間を費やし思考の訓練として向き合っただ下さるのが島津先生なのだ。多くの読者を望めない研究であるにも関わらず、膨大なコーパスデータの中から考察対象の実例を的確に見定めて収集し、極力誤解を招かぬように言葉を選んで分析結果をまとめる。これは途方もなく空虚な作業のようでもあるが、ひょっとしたら島津先生のように拙稿を楽しんで下さる方がいるかもしれない。気を抜いてはならない。2015年の秋の島津先生からのメールは、こんなふうに今後も私にメールを送り続けて下さるに違いない。

島津先生にいただいた一連の質問やコメントに対しては、『中国語学』263号掲載論文においてできる限りの回答を試みたが、十分に答えきれたとは言いがたい。残された課題について考察を続け、成果を報告することによって、言葉では言い尽くし得ぬ島津先生への敬愛と感謝の気持ちの一端を表明してゆきたい。